

平成29年度「近畿地区青少年教育施設協議会総会並びに基本研修会」実施報告

- 1 趣 旨** 近畿地区青少年教育施設協議会総会並びに基本研修会を通して、青少年教育施設が果たす今日的役割及び今後の課題等を明らかにし、青少年教育施設の活力あふれる管理運営の方策を探る。
併せて経験の浅い職員等を対象にした研修会を実施し、職員の資質向上及びネットワークを構築する。
- 2 主 催** 近畿地区青少年教育施設協議会、国立曽爾青少年自然の家、国立淡路青少年交流の家、
- 2 日 時** (1) 総会及び所長研修会
平成29年4月26日(水) 14:00~27日(木) 12:00 (1泊2日)
(2) 基本研修会
平成29年4月27日(木) 9:00~28日(金) 11:30 (1泊2日)
※27日の午前については、(1)、(2) 合同実施
- 3 場 所** 国立淡路青少年交流の家
- 4 対 象** 近畿地区青少年教育施設協議会加盟施設長、経験の浅い職員等
※基本研修会については、加盟施設以外の方にも呼びかけて実施
- 5 参加者** (1) 総会及び所長研修会 25名
(2) 基本研修会 18名
- 6 ゲスト** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 指導主幹 北見靖直氏

7 内容等

【4月26日(水)】

14:00~15:00 総会

今年度は、理事が新たな顔ぶれとなった。そのほかにも平成28年度の事業報告、収支決算、平成29年度事業計画、収支予算などについて報告・協議を行った。

15:00~17:00 協議等

①平成28年度全国青少年教育施設所長会議・施設研修集会について

：和歌山県立白崎青少年の家 山本所長

小菅正夫氏(元旭山動物園園長)の特別講演「人と組織を動かすマネジメント」の中で、スーパースターはいらない。職員一人一人が意識をもって仕事をするのが大事であるとの話があった。



②ユースミーティングの報告と今後の予定について：国立淡路青少年交流の家 山崎係員

成果として、「若手中心で情報交換が活発に行われている」、「自施設について改めて考える機会になった」、課題として、「事業実施に目が向きがちになり本来の目的が逸れてしまう場面があった」、「所属施設がバラバラであるために定期的な開催ができず、内容を詰めることが難しかった」などが挙げられた。

今後の予定として、新メンバーの募集、平成 29 年度の若手職員が主催したキックオフミーティングで出た意見を基に新たな取組を行うこととなった。



③これからの近青協について：国立淡路青少年交流の家 大本所長

これまでの近青協の取組をふりかえり、成果と課題を発表した。成果としては、「人間関係ができる」、「施設間の情報共有」、課題としては、「名前が堅苦しい」、「広報不足」などが挙げられた。成果と課題を踏まえ、12月に行われる専門研修の内容について検討した。近青協の広報不足が課題としてあり、広報の研修をしてはどうかという意見があがった。



【4月27日（木）】

9：00～10：30 施設取組紹介、施設見学

当所の事業「AWAJI 未来探検隊」は地域のポテンシャルを活かした事業として紹介した。地域を巻き込んだ企画・運営をすること、人との出会いなどが大切であるとの話があった。

施設見学は、海型の施設と山型の施設があったため、興味のある場所を自由に見学できるようにした。また、当所の下見資料を参考資料として渡した。



10：30～12：00 研修①「先輩職員に聴く」

所長と若手職員が一緒になって仕事上の悩みを書き出し、同じような悩みをもっているグループで話し合った。経験豊富な所長から若手職員にアドバイスをする姿を見ることができた。



13:00~17:00

研修②「青少年教育施設職員の心構えと必要な知識」：国立青少年教育振興機構指導主幹 北見 靖直氏

研修③「青少年教育施設職員に必要な技能」

ゲストの北見氏に青少年教育施設職員の心構えや必要な知識・技能についてお話しいただくとともに、レクリエーションも指導いただいた。施設職員としてのマインドや関わり方、指導のコツや実践等を学ぶことができた。



17:00~17:15 研修④つどい研修

北見氏にオリエンテーション合宿で宿泊していた高校生の前でレクリエーション指導をしていただいた。

北見氏のレクリエーションによって高校生の顔が徐々に緊張が解けて満面の笑顔になる姿を見て、レクリエーションの基本と対象に応じた指導方法を学ぶことができた。



19:00~20:00 1日のふりかえり

1日の研修を、参加者それぞれソロタイムでふりかえった。ふりかえる中で出てきた、「もっと知りたいことや聞きたいこと」は付箋に書き出し、北見氏に答えていただいた。



【4月28日（金）】

9:00~10:30 研修⑤「プログラム体験」

グループで課題を解決することを目的とした「アドベンチャーラリー」を体験いただいた。実際に体験し、自施設に持ち帰ってプログラムとして活用できるよう紹介をすることができた。



10:30~11:30 研修⑥「まとめ」

参加者で、「印象に残ったこと」「これからの目標」を共有した。「自信になった」、「不安から期待に変わった」など参加者からも、これから自分が施設職員としてどうありたいかを聞くことができた。



6 参加者の声

- すごく楽しかったです。また、うちのリーダーを連れてアドベンチャーラリーをしたいと思いました。
- 自分が悩んでいたこととか迷っていたことを解決するヒントをたくさん頂きました。ありがとうございます。
- 北見さんの講義内容が非常に役に立って新しいことを吸収出来てよかった。またあれば参加したと思います。
- 様々な施設の方と関わることで、自身の職場についても考えることができました。考えを言葉にする機会も多く良かったです。

7 成果・課題

近青協をより充実した研修の場となるよう近青協加盟施設全体で検討し、3年を迎えた。成果として、運営や内容について一度ふりかえる時間を取ることができた。北見氏の研修は、教育施設職員としての心構えを学ぶことができた。また、経験豊富な職員のみならず経験の浅い職員同士のネットワークづくりになった。

平成28年度の実施を受け、29年度に向けて出た以下の課題については、次回の理事会で協議することとなった。

- ①企画内容や進捗に対する助言者の必要性
- ②企画メンバーが集まる日程調整の難しさ
- ③近青協加盟施設に対する PR や成果の発信